

第4章 整備の理念と基本方針

1 史跡竹田城跡の位置づけ

(1) 精巧な縄張りとは石垣を有する貴重な山城

史跡竹田城跡は、天守を中心として3方向に向けて放射状に曲輪が展開する山城である。自然の地形を巧みに利用した精緻でまとまりのある縄張りが展開されている。中でも、花屋敷は鉄砲狭間を伴う石塁が存在し、全国でも類例の少ない貴重な縄張りである。

また、史跡竹田城跡の象徴ともいえる石垣遺構は廃城後も保たれ続け、石垣の価値を形成する①形態・意匠、②時代性、③地域性、④技術、⑤精神性の5要素を欠くことなく備えている。

(2) 中世と近世の特徴を併せ持つ山城

近世の城郭遺構に先行する時期の遺構が、重なり合って残存していることが判明しつつあり、但馬地方における中世から近世にかけての城郭変遷を示す貴重な城郭である。

(3) 朝来市の景観を形成する要素

古城山山頂に築かれた竹田城跡の石垣は、朝来市を代表的する歴史的な景観の一つであり、竹田地域の景観を形成する重要な要素である。山上の石垣の威容と城跡の佇まいは、かつての栄華を偲ばせ、竹田地域の景観を特徴付ける重要な要素となっている。

(4) 朝来市の象徴

廃城後も石垣や城郭周辺からの眺望が残され続けているため、地域の人々によって保存が図られてきたと考えられており、現在でもその精神は受け継がれている。近年では、雲海に浮かぶ天空の城として全国に知られており、朝来市を代表する観光地としての役割も担っている。



複雑な石垣による縄張り(天守台より)



竹田城跡と竹田の町並み

2 保存・活用の基本理念と基本方針

竹田城跡の保存と活用のあり方について、『史跡竹田城跡保存活用計画』では基本理念と基本方針を以下のように示した。

基本理念	
保存	<ul style="list-style-type: none"> ○城跡内の遺構・遺物を確実に保存し、周辺環境並びに景観を適正に管理することにより、本質的価値を将来にわたって守り伝える。 ○城跡の調査研究を継続することによって城跡本来の姿を解明し、適正な保存や新たな価値の発見につなげる。
活用	<ul style="list-style-type: none"> ○城跡を「我がまちの誇り」とするため、文化財の理解を高めるとともに城跡総体の持つ価値が興味へとつながる活用を目指す。 ○城跡を朝来市の文化を示す「核」と位置づけ、多様な手法を効果的に用いて情報発信することで、市の活性化につなげる。

基本方針	
保存	<ul style="list-style-type: none"> ○遺構・遺物の保存に必要な措置を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・城跡内の現状を把握し、遺構の損壊や土の流出によって遺構・遺物が露出するなどの恐れがある箇所については、早急に保護措置を行う。 ・城跡の本質的価値を構成する諸要素を適正に保存する。 ・城跡の象徴をなす石垣遺構については、その重要性和、見学者の安全確保の観点から考慮し、計画的な管理や修理などの保護措置を行う。 ○城跡内の調査研究を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・城跡内の遺構を適正かつ安全に保存するために、石垣の観測をはじめ、城内の多様な遺構の調査・研究を計画的に進め、記録を蓄積・分析して将来の保護措置につなげる。 ・曲輪群、塹堀、大塹堀など、現状では認識しづらい遺構や花屋敷の石塁などについては、適切な調査・研究を行うことにより、将来の保護措置につなげる。 ・古城山全域の遺構や山麓部の赤松氏居館跡推定地周辺の調査を計画的に進め、城跡の実態を明らかにすることで本質的価値の保存と適正な活用を図る。また、未見の文献・絵図などの資料などについて調査・研究を継続する。 ○古城山の環境と周辺景観の一体的な管理を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・城跡の環境については、遺構の保存を最優先に、城跡が立地する古城山の環境や周辺景観との調和を意識した管理を進める。 ・山頂や周辺地域からの眺望、景観を考慮しての山並み景観、農村景観、河川景観等の一体的な保存を図る。
活用	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民と行政が一体となって活用を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・学術調査の積極的な情報発信や公開により、その価値を地域住民と共有し、多様な参画を得ながら活用を図る。 ○城跡の魅力伝えるための整備を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・城跡の理解を深めるうえで必要な施設を検討し、現状の施設内容や配置を見直し、適切な活用を図るための施設を整備する。 ○城下町を含めた回遊性の創出を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・城下町や城下町に残る歴史文化遺産、たけだ城下町交流館(情報館「天空の城」)、円山川の自然環境などと一体となった、朝来市内の回遊性の創出を目指す。

3 整備の基本理念と基本方針

史跡竹田城跡の位置づけと全体方針を踏まえ、竹田城跡を後世に確実に継承し、適切な公開・活用を目指すため、以下のように整備の基本理念と基本方針を設定する。

基本理念

- 石垣を有する山城として稀有な城跡の本質的価値を確実に保存、広く公開・活用するための整備と調査研究を行う。
- 城跡の本質的価値である石垣を保護し、後世に確実に継承するための整備と調査研究を行う。
- 城跡の佇まいを保ちつつ、史跡とその周辺の景観を適切に保護するための整備を行う。
- 城跡が高所に位置し、冬季は凍結や積雪に見舞われる寒冷な気象条件であることを踏まえ、主郭部周辺の限られた範囲に多数の見学者が集中するという現在の利用状況に対応することが出来る整備を行う。

基本方針

- 遺構、遺物の保存に必要な措置を行う。
 - ・今後の整備においては、遺構・遺物の保護を最優先とし、必要に応じて確認調査を実施し、城跡の実態解明に努めるとともに、その成果を保存と整備に反映させる。
- 本質的価値である石垣を次世代へ伝えるための措置を講じる。
 - ・城跡の本質的価値である石垣を確実に保護し、必要な措置を講じる。
 - ・石垣の修理にあたっては、これまで守り伝えられてきた石垣を後世に継承するため、可能な限り解体修理を避け、現存する石垣の保存に努める。
 - ・石垣の構造体(積石、裏込め、盛土)が安定した状態を維持できるよう、必要な措置を講じ、石垣の保護を図る。
 - ・城跡の本質的価値である石垣について、各種調査を行い、情報の蓄積を図る。
- 城跡の魅力を高めるため、適正な環境整備を図る。
 - ・可能な限り石垣等の城跡遺構の顕在化を図り、城跡の魅力が伝わる整備を行う。
 - ・城跡の見学者は一般の観光客の割合が高いため、より多くの人々が城跡を利用しやすく、城跡について理解を深めることができる整備を目指す。
 - ・城跡を適切に活用するため、安全な見学環境の整備を図る。
 - ・見学者の安全を確保できない箇所は立ち入り制限等の措置を講じ、必要な整備を実施し、将来的な見学エリアの拡大を目指す。
 - ・城跡の調査成果を踏まえ、施設内容や動線計画を検討し、魅力ある史跡を整備する。

基本方針

○城跡の魅力を高めるため、適切な景観の管理を行う。

- ・城跡としての佇まいを感じることが出来るよう、適切に史跡の管理を行う。
- ・城跡を形成する古城山の自然環境を把握し、維持管理と周辺環境との調和を図ると共に、山城としての景観を意識した整備を行う。
- ・山城の景観を保護するため、樹木管理基準を設定し、統一的な考えのもとに植生を管理する。

○「地域の誇り」となる城跡を守り、価値を発信しながら活用と地域の活性化を目指す。

- ・市内の歴史文化遺産との連携した地域づくりの核を目指す。
- ・竹田地区をはじめとする地域活動との密接な関わりを継続する。
- ・次代を担う地域の子も達への普及啓発を積極的に実施する。
- ・地域住民や関係団体と連携を図り、城跡に関する情報発信を図る。
- ・インターネットなど、様々な手段を用いた情報発信を図る。